

県民性を象徴する会津若松

～生真面目さと忍耐強さ～

日本不動産研究所 福島支所
不動産鑑定士 石川 勝利

平成 23(’11)年 3 月 11 日午後 2 時 46 分、あの日・あの時を境に福島は置かれる状況は一変した。

地震・津波は多くの人命を奪い、東京電力福島第 1 原子力発電所事故による原子力災害は、美しい「ふくしま」の様相を一変させ、風評被害は地域経済の活力を奪っている。こうした社会的背景のもと、平成 24(’12)年地価公示の県全体平均変動率は、住宅地-6.2% (前年-3.4%)、商業地-7.2% (前年-4.3%)、工業地-6.9% (前年-3.7%) と全ての用途で前年を上回る下落幅を示した。

東日本大震災から 1 年以上が経過し、津波災害・原発事故により大勢の人たちが住み慣れた街を追われ、県民の多くが目に見えない放射線への不安と闘いながら必死に生活している。これほど厳しい環境であっても、福島県に暮らす人々の多くは、取り乱すことなく復旧・復興に向けて一生懸命頑張っている。こうした福島県に暮らす人々の「生真面目さ」や、「忍耐強さ」を象徴する街でもある、会津若松市に焦点をあてた。

会津若松市は福島県西部で、磐梯山や猪苗代湖など豊かな自然に囲まれた会津盆地の南東に位置し、南北に長い市域の北西部に市街地が形成されている。会津藩の城下町として古くから栄え、近年では富士通の企業城下町として飛躍を遂げた街でもある。観光・工業都市の両面を兼ね備えた会津若松市であるが、平成 20(’08)年秋の「リーマン・ショック」以降、経済・雇用環境は厳しい状況が続いている。平成 24(’12)年地価公示の会津若松市の平均変動率は、住宅地-5.3% (前年-3.9%)、商業地-5.6% (前年-5.2%) となり、工業地で変動率が-7.1% (前年-7.2%) となった。

中心市街地は、JR「会津若松」駅を起点に南北に縦断する中央・神明通り沿いに商店街が形成されている。最近では郊外部に大型店が相次ぎ出店したことにより中心商業地の衰退が進んでいる。こうした状況のなかで、中心市街地のひとつである七日町通り沿いでは、古い街並みの保存に取り組み、新たな観光資源の一翼を担うべく整備が進められている。



「市街地を縦断する神明通りの街並み」

平成 23(’11)年の観光客入込数は約 2,353 千人で、NHK大河ドラマ「天地人」が放映された平成 21(’09)年の約 3,447 千人と比較して約 31.7%の下落となっている。平成 23(’11)年の観光客数の減少が顕著となっている要因には、東日本大震災による余震への不安、全国的な自粛ムード、原発事故による風評被害等が挙げられる。(会津若松市は東京電力福島第 1 原子力発電所から西方約 98km に位置し、平成 24(’12)年 4 月 23 日午後 4 時における会津若松合同庁舎駐車場での環境放射能測定値(暫定値)は $0.12 \mu\text{Sv/h}$ (福島県災害対策本部)であり、県内各所の環境放射能測定値と比較しても低位に位置している。)こうした風評被害等を背景とした観光客の減少に対し、福島県の県民性とも言うべき持ち前の「生真面目さ」や「忍耐強さ」を發揮し、観光復興に向け地道な取り組みが行われた結果、平成 23(’11)年 9 月以降、徐々に観光客数は増加傾向にある。



「観光客が戻りつつある鶴ヶ城」

平成 25(’13)年NHK大河ドラマは、「幕末のジャンヌ・ダルク」と呼ばれる新島八重の生涯を描いた「八重の桜」が予定され、福島県の観光復興への一助となることが期待されている。

明治元年の会津戦争で大勢の人たちが住み慣れた街を追われ、目に見えない「逆賊」の汚名を着せられながらも必死に生きて、復興を遂げた歴史は現在の福島県の置かれた状況と酷似する。会津戦争後の困難を乗り越え、復興を果たした会津の人々を支えた精神「ならぬことはならぬものです」（会津藩の人材育成の指針であった「什の掟」）が、今の福島県民の「生真面目さ」や「忍耐強さ」の背景にあるものと思うが、こうした精神が残っている福島県は、必ずこの大災害から復興すると確信する。



「人材育成の象徴だった会津藩校日新館」

【会津藩校日新館の人材育成の指針であった「什の掟」】

- 一、年長者の言ふことに背いてはなりませぬ
 - 一、年長者にはお辞儀をしなければなりませぬ
 - 一、嘘言を言ふことはなりませぬ
 - 一、卑怯な振舞をしてはなりませぬ
 - 一、弱い者をいぢめてはなりませぬ
 - 一、戸外で物を食べてはなりませぬ
 - 一、戸外で婦人と言葉を交へてはなりませぬ
- ならぬことはならぬものです